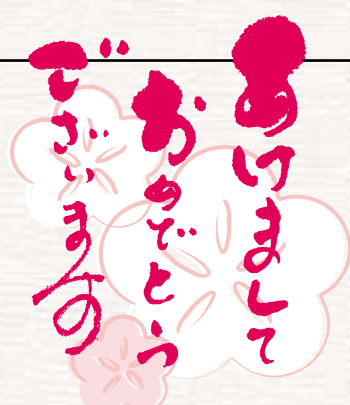




あなたとJAのコミュニケーション情報誌

夢 広がる なかしべつ

Vol.373



INDEX / 目次

今こそ協同を意識して 代表理事組合長 高橋 勝 義... 3
 共生の世紀づくりに邁進 北海道農業協同組合中央会会長 宮田 勇... 4
 技術・経営管理の総点検を 北根室地区農業改良普及センター所長 広瀬 勉... 5
 学び、遊んで、パートナーと共に 女性部部长 井口 五子... 6
 青年部の力を活かし農業再生を 青年部部长 鷲見 健... 6
 内閣総理大臣賞に輝く 遠藤 昭 男... 7

センター特集 竹村絵里さん&えふ・すういーる... 8~9
 『全道JA青年部大会』が開催されました... 10
 High Quality MILK宣言 板橋 匠さん・松田 貴裕さん... 11
 乳製品消費拡大イベント「チーズDE晩ごはん」... 15



平成十八年 元旦

謹んで
新しい年の
お慶びを
申し上げます

中標津町農業協同組合

代表理事組合長	高橋	副組合長理事	藤井	営農委員長理事	村上	管理購買委員長理事	鈴木	生産委員長理事	中野	理事	篠原	理事兼務参事	乾	理事兼務管理部長	西村	代表	土上	監事	川
---------	----	--------	----	---------	----	-----------	----	---------	----	----	----	--------	---	----------	----	----	----	----	---

外
役職員一同

勝義	美智	重光	祥幹	忠雄	直文	慎二	賢信	清信	聖一	昭男	義明	雅一	優一
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

今こそ協同を意識して

代表理事組合長 高橋 勝 義



新年あけましておめでとうございます。
皆様には、2006年の門出を御健勝でお迎えのことと、
心からお慶び申し上げます。

昨年中は、本組合の事業運営に対しまして、組合員の皆様を始め、各関係機関の方々に特段のご指導ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

加工乳は、乳業メーカー食中毒事件を契機として需要低迷し、飲用乳についても緑茶飲料や豆乳などに消費が流れ、原料となる脱脂粉乳やバター在庫が適正量の2倍以上に膨れあがりました。この深刻な過剰在庫に加え、WTO農業交渉による乳製品の関税削減も表面化して参りました。

新多角的貿易交渉（新ラウンド）は、本年最終決着を目指しておりますが、交渉次第では、酪農製品や米など、高関税で守られている日本農業にとつて大きな打撃を受けることになりかねません。加えて、2年ぶりに米国とカナダ産牛肉の輸入が解禁されました。

安全性に対する消費者の根強い不信心感の中での見切り発車とも言えますが、消費者の安心感を取り戻すために日本として、米国の全頭検査、表示の義務付けと責任を持った監視体制、そして情報公開を怠らないよう、政府に強く求めて参りたいと思います。さて、JA中標津に目を向けますと、

畑作について、だいこんは春先の低温による品質の低下、相場の安値推移などから苦戦をしつつ頑張ったものの、計画を下回る結果となりました。しかし、澱原、てん菜、ブロッコリーなどは、組合員皆様のご努力が実り、ほぼ平年作以上の収穫をもって終えることができました。

生乳生産につきましては、前半に伸び悩んでおりましたが、乳質同様に日々のご苦労の成果が実り、後半徐々に前年比プラスに転じており、やつと勢いを取り戻した矢先に、13年ぶりの減産方針が固まり、本年4月から新たな計画生産が実施されることになりました。

具体的な取り組みについては、単協組織段階から生産者に選択をしてもらう段階へと準備を進めている状況下であります。需給バランスを調整するためとはいえ、減産はまことに残念な事態と言わざるを得ません。平成5年に実施した食紅牛乳の辛い思い出と苦い経験が脳裏によみがえりますが、生産意欲が損なわれることのないよう、十分に理解を得ながら進めなければならぬことから、取り進めに当たっては、営農部・生

産部を中心に万全の体制で生産者に周知徹底して参りたいと考えております。

作業効率を高め、生産コストの低減に向けて、今以上にご努力いただきますようお願い申し上げます。

農協事業につきましても、大型複合施設の移転新築や大手資本の参入など、Aコープ、給油所などJA中標津のみならず、根室管内商圏が大きく変容した激動の1年でした。今後、経済事業はもとより、牛肉の輸入再開による枝肉相場の下落が販売事業に与える影響も想定を超えるものと予想しております。

今日までの実績と信頼、安心と安全を更に提供できる体制作り。今こそ「協同の精神」で「組合員」「役員」「職員」が一体となった「組織の力」を結集し、期末に向けて最大限の努力をもって取り組んで参りたいと思っております。

結びに組合員を始め、JAご利用の皆様にとりまして平成18年が輝かしく希望に満ちた年でありますことをご祈念申し上げます、年初のご挨拶と致します。

共生の世紀づくりに邁進

北海道農業協同組合中央会会長 宮田 勇



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先の天候不順で、収穫期の作柄を心配しておりましたが、その後の好天により米、畑作、酪農全般にわたり総じて良好に推移しました。特に米の作況指数は109と大豊作となり収量も過去最高となりました。しかし、米を中心に価格の低迷が続き農家経済は厳しいものとなり、豊作を素直に喜べない状況にあります。そのため、J Aグループ北海道は、現在組織を挙げて再生産可能な所得確保対策に全力を傾注して取り組んでいます。

さて食料・農業・農村・J Aを取り巻く環境は、WTO農業交渉が昨年12月の香港閣僚会議において、本道の最重要課題であります上限関税や重要品目の扱いについては決着が先送りされました。しかし、モダリティの確立期限が4月末までと設定されるなど、交渉は再び厳しく、予断を許さない状況下にあります。北海道農業が日本の食料供給基地としての確固たる地位を築き、食料自給率の向上と消費者への安全・良品質な農畜産物の供給を目指すために、日本農業の存在自体を否定するモダリティ案は断じて認めることができ

ません。今後とも日本提案が認められるよう内外の関係団体との連携を強化し運動を盛り上げていきたいと存じます。

一方、平成19年産から導入される品目横断的経営安定対策については、円滑な移行に向け、制度の周知徹底、認定農業者への指導や生産の組織化など、組織をあげ取り組むとともに、財源確保対策を含め北海道の農業者が将来に希望を持つて農業に携わることが出来る政策の実現にむけ万全を期していきたいと思えます。

また昨年は規制改革・民間開放推進会議による「信用・共済事業の分離・分割」「独占禁止法の適用除外」などJ A組織の存続にかかわる問題が提起されており、引き続きJ Aに対する道民の理解を深める広報対策を強めてまいりたいと存じます。さて本年は3年に一度開催される「第25回J A北海道大会」が開催されます。21世紀における北海道農業・J Aが取り組む指針であり、北海道農業が日本の食料供給基地として農業の展開を図るため、食料自給率の向上と消費者への安全・良品質な農畜産物の供給を目指すとともに、J

A経営では自己責任に基づく経営の健全化を図り強靱な経営基盤を確立することが必要であります。

これまでの社会はひたすら物質的豊かさを追い求めてきました。その結果、経済効率、企業優先の社会となり資源や環境の破壊をもたらしてきました。しかし環境や資源、安全などが重視されるようになり農業、J Aに対する見方も随分変わってきました。競争から共生の社会へ時代は変化しています。いまこそ「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念を全員が意識し「共生の世紀づくり」にまい進しようではありませんか。J Aグループ北海道は組合員、J A、地域住民の期待と信頼に応えるためこれからも全力で取り組んでまいります。最後に、本年は災害がなく豊稔の出来秋を迎えることができよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



技術・経営管理の総点検を

北根室地区農業改良普及センター所長 広瀬 勉

謹んで新年のお喜びを申し上げます。
皆様ご健勝で輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

皆様には、日々の農作業に精を出され、根室農業の発展にご尽力をなされていることに対しまして、心より敬意を申し上げます。特に貴組合におかれましては、機械の共同利用及び担い手育成、さらに新作物の導入などの取り組みは大きな成果を上げられ、特筆に値するものと存じます。昨年を振り返ってみますと、農耕期の天候は比較的穏やかで、作物収量・品質もまずまずであり、家畜管理も順調に進んだものと存じます。また、管内的には、知床の世界遺産登録や野付半島・野付湾のラムサール条約登録により、根室の自然が目された年でありました。

一方、国内農業面では生乳の消費が伸びず、脱脂粉乳在庫過剰問題が大きくなり、生乳出荷調整の段階に至りました。また、国際的には、米国産牛肉輸入の再開やWTO・FTAの進展など、国内農業への影響が懸念されているところです。

このような情勢にあつて、『経営体質の強化』が重要な課題の一つと存じます。経営体質強化のためには、技術・経営管理の総点検が必須です。普及センターでは、今年度中に酪

農肉用牛近代化計画にも応用できる積算資料を作成いたします。次の段階では、技術点検・経営管理点検の参考になる指標を皆様に提示したいと考えております。

また、国内農政の面では、食料・農業・農村基本計画が昨年策定され、北海道も「北海道農業・農村ビジョン21」を策定しています。このビジョンでは、4つの視点（食、環境、人、地域）を強調しています。これらの構想は、農業の多面的機能・役割にも注目しており、地域活性化の原動力の一つとして、農業に期待を寄せています。特に根室管内では、農業が基幹産業の一翼を担っており、地域経済のリーダーでもあります。

これらの取り組みの主役は『人』です。改めて「協同の精神」「先人への感謝」「次代への基礎づくり」と引き継ぎ」を基本理念として、前進することが大切です。

皆様のご健勝で新たな第一歩をするす年でありますようにご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

北海道農業・農村ビジョン21

消費者に支えられた安全安心な『食』のシステムづくり
豊かな食生活をはぐむ食料の生産提供
地産地消や食育などを通じた消費者と生産者との結び付きの強化

時代を担う多様で元気な『人』づくり
地域農業を支える経営体や組織の育成

『環境』と調和した生産活動の推進
『環境』を保全し、心安らぐ田園空間の創造

個性を活かしたオンリーワンの『地域』づくり
農とふれあい、楽しむ場の提供
快適で住み良い生活の場づくり

北海道農政部
平成16年3月

学び、遊んで、パートナーと共に

女性部部长 井口 五子



新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで新しい年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年は、大雪、台風、地震など災害が多く、農家経営にも幅広い影響を及ぼした一年でした。私たち女性部は、環境整備の一環として開陽台周辺のゴミ拾いから始まり各行事を部員の皆さんの協力を頂き組織作りに取り組んで参りました。

また、日常の大切さ、生産者の『食の安全、安心』と生命を守ることの大切さを理解し、家族や地域の活性化を図って参りました。

JA全国女性組織協議会の「かわろう、かえよう」運動は、ひとりひとりが、「かわりました」「かえました」と言えるように自分のできることを探して、実行し、良いところが見出せて、そこからさらに、我が家の経営にもつなげていくことができるのでは...とも思います。

農家の大切な女性とは、パートナー。良きパートナーが居て、良い経営が築かれていくものです。

パートナーの役割を忘れず、お互い頑張りましょう。
今年一年、女性部も『学び、遊び』いつもみんなの笑顔、ゆとりあるすばらしい一年で過ごせますように、皆様のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。



×



=

(無限の力)

新年明けましておめでとうございます。昨年中は、組合員の皆様を始め、各関係機関の皆様、農協職員の方々には、

私たち青年部の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、大変ありがとうございました。

今年度は、牛乳の消費低迷により計画生産が実施されることが決まりました。また、米国産牛肉の輸入も再開され、どちらも、私たちの営農への影響が心配されます。

このような厳しい時代にこそ、私たち青年部は『協同の精神』農協組織の大切さを理解し、青年部らしい活動をしていかななくてはなりません。私たちは、生産者でもあり、消費者でもあります。

みんなで牛乳を飲んでチーズ、ヨーグルトを食べ、この厳しい時代を乗り越えていきましょう。

皆様には、今年も私たち青年部にご指導、ご鞭撻をお願いしますとともに、皆様のご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



青年部の力を活かし農業再生を

青年部部长 鷲見 健

平成17年度 農林水産祭式典で遠藤昭男氏が 内閣総理大臣賞を授与されました

平成17年度（第44回）

農林水産祭が東京都明治神宮会館で11月23日に開かれ、当農協組合員・遠藤昭男氏が内閣総理大臣賞を受賞しました。

一昨年、農林水産大臣賞を受賞した遠藤氏ですが、やはり何度受賞されても緊張はされるもの、当日は、明治神宮の神楽殿にて農畜産物の収穫を感謝する儀の新嘗祭（いなめさい）から参列し、続いて行われた平成17年度農林水産式典で長勢甚遠内閣官房副長官より内閣総理大臣賞の賞状と副賞を授与されました。

その後天皇杯、内閣総理大臣賞、農林水産振興会長賞の3賞受賞者と来賓の方々による懇親会が開かれ親睦が図られた模様です。

受賞の御礼

遠藤 昭男

私がこのような名誉ある賞をいただけたのは、一番には、昨年の受賞の時にも話しましたが、先代のご苦勞があつてのこと。また、地域の応援や農協、他の組合員さんの協力があつて、自分が積み重ねてきた、このような取り組みが可能となつた。ここまで皆さんに大きくしてもらつたんだ！と関係各位の方々のおかげと痛感しております。

また、受賞のきっかけを作っていた北海道酪農畜産協会の方々にも筆舌

に尽くしがたい感謝の念をいただいております。全国60もの畜産系受賞者候補の中から、私が受賞したことは、道内の著名な受賞者の農場へ視察に行った私自身驚いているところです。

これからも、現状の方法論で自分が持てる力をそのまま、継続していくことが今回の受賞に恥じないことと思っております。今後とも皆さんのご協力を賜りながら着実な経営を続けていきたいと考えております。ありがとうございました。





計根別農協の酪農女性後継者グループ『えふ・すういーる』より、かねてから同じ酪農業に従事する、酪農家女性（未婚者を基本）の交流会を企画しているので、中標津町農協管内で各種学校卒業後に実家で就農した女の子に声をかけて欲しい…。との依頼を受けて数人に声をかけてみました。

今回の特集は、このような活動をしているグループとその活動、全道には女性酪農後継者たる女の子が多数いるということ。既婚酪農家女性ともまた違った感覚のデリケートな部分を持つ女の子たちの交流・研修をサポートしている計根別農協の取り組みをお伝えすることと昨年10月から新規就農された陶アウルサークルの竹村絵里さんをクローズアップしてみます。



『えふ・すういーる』が11月13日、14日にかけて行った管外研修会に当農協管内からは、竹村絵里さんが参加しました。十勝方面への視察研修ということで、車で計根別の酪農女性後継者の方々と一緒に、仕事やプライベートまで幅広い話をしながらの楽しい移動となりました。

研修先となった農事組合法人共働学舎新得農場は、飼養頭数ブラウンスイス60頭。生乳生産が約400トン。しかし、従業員数は驚くことに60人を越えません。

当農場の宮島代表は、「60人を養わなければならない中で、400トンでは逆立ちしても無理。その無理を打開するための手法が付加価値の高いチーズ作りであり、場内にある『ミントル』なんです」といいます。

共働学舎の起こり

共働学舎は、昨年28年を迎えました。宮島代表の父が学校の教授で子どもたちに教えてきました。50歳で全言になってしまった。これからのという時に、この出来事で宮島代表は人に伝え

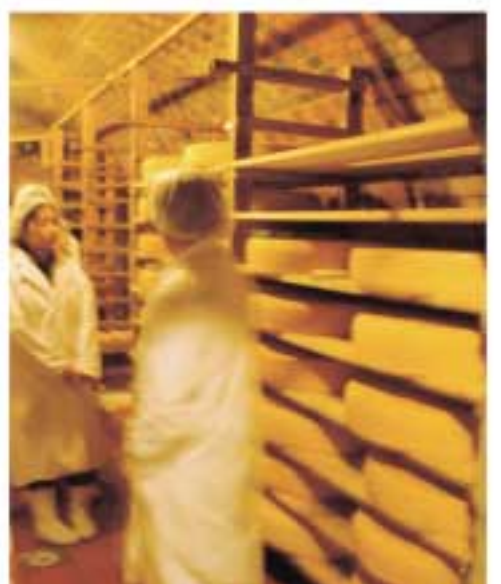
ることの大切さ、教えることの意味を認識し、「1人1人持っている能力が違うのであるから、さまざまな悩みや理想、身体的・精神的なハンディを持つ人でも得意なことでも補完しあい、『共に働く』ことで経済的・精神的に自立を目指し、真に『生きる』ことを学んでもらっている。社会福祉法人として業務を行っているために、日本のシステムでは、同じ障害や病気の人を束ねて、他の人に安全なように管理する方法をとらなければならぬ。それでは、世話される側世話する側という形での業務し



かできず、変わっていかない。同じ結果にしかならない。欠けている部分を協力しあう必要があるのに…。このような、目指すものの違いから、行政からの資金提供や補助を受けられない中でも、10倍の稼ぎをしなければならぬ。できるのか？ やらなければならぬというのがあったし、理論上は可能ということ、資金調達に奔走した」

付加価値を高め、世界的に認められるチーズ

宮島代表は、自ら海外に飛び、チーズ作りの先生に師事し一通りチーズ作りを学んだ。しかし、環境の違う場所では、その技術はそのままで使えない。十勝の新得でしかできないチーズ、世界的に認められるチーズ作りをするために、海外から技術者を招き、チーズ作りに携わる者、皆が学んだ。技術者はプロ。試行錯誤を繰



り返し、納得のできる製品にたどり着くのに時間がかかった。牛舎は極力、木で建てられ、合理的な傾斜を利用したパイプの勾配を利用し自然流下で生乳をチーズ工場内へ移している。菌に気をつけるの菌は悪さをする菌のこと。微生物が育つ環境づくりを牛舎に求めると、牛舎（無機物）が鉄骨や鉄板でできていたり、ポンプを使うと、電位的に良い部分が伝道して逃げてしまつこと、有効な微生物が活発に活動できることへの配慮として、大手乳業工場と違うことが、この農場ではできる。雪の降る中でも炭と木の牛舎内は暖かでした。

特集

交流の場で 新しい仲間づくり

中標津町農協管内で酪農に従事してらっしゃる「お父さん、お母さん」。お家に酪農に従事している娘さんはいらっしゃいませんか？ その娘さんには、いろいろな方とふれあえる交流の場がありますか？



『ミンタル』は交流と情報発信の場

ミンタルとはアイヌ語で広場や人の行き交う場という意味。チーズの販売、飲食コーナーのほか、チーズ・バター造り体験も受けています。2004年第3回山のチーズオリンピック・スイス金メダル受賞の2月〜6月限定商品『さくら』。フランスチーズ界最高責任者から、いつまでもコピーしたチーズを作るな！と叱咤され、試行錯誤の上に完成させた、オリジナルのカマンベールタイプ『笹ゆき』を始め、10を越える魅力ある商品群。ちよつとずつのみんなの力を合わせて、今日も共働学舎新得農場は営業しています。さて、研修する姿勢が良かったためか、宮島代表はここに、書ききれないほどの様々な話をしてくれました。耳を傾け、真剣な表情で聞き入っていた研修会参加者一行は、帯広市内に場所を移して交流会を開催。道内各地から、さらに4人の酪農後継者が合流参加し、夕食を取りながら、同じ仕事をしている環境の女性同士、幅広い話題です

ぐに意気投合し、楽しい時間を過ごし、全道のネットワークがさらに、大きなものになっていきました。

お誘いに参加して

高校卒業後、ニユージランドでの1年間の酪農研修を経て、おとし実家に戻り、最初の1年間は、なかなか交流も勉強もする機会がなくて、家にこもっていました。その頃は、実家の育成牛預託事業を従業員という形で、事務と現場作業をこなしてきました。

昨年は、秋からのルーキーズカレッジや根室支庁主催の勉強会など若手後継者向けの育成事業がスタートして、外に出て学ぶ機会が多くなってきましたが、なかなか、同世代の女性酪農後継者と交流する機会が無かったので、今回は大変意味深い貴重な体験・出会いになりました。戻ってからの1年間は、海外での経験や考え方を踏まえ、自分が農業に関連して、やってみたいことを見つめる時間にもなり、昨年春に急ぎよ、就農するチャンスにも恵まれ、両親と話し合い、

変則的ですが新規就農という形で、生乳生産を行って

いくこと

なり、離農跡地で牛舎の改築などを終えて10月から出荷を開始しています。

チャンスを開けた両親にも支えてくれている地域の人も本当に感謝しています。このチャンスを生かして自分の目標に向かっていきたいです。

先日、某農機具メーカー営業の方の紹介で本社の女性従業員の方の「農業体験をしたい」という話を受けることになりました。「体験したい！」との気持ちで、始めたばかりの私のところに来てくれて嬉しかったし、違う視点で物を見ているので逆に勉強にもなりました。1日半という限られた時間でしたが、遅くまでいろいろな話をしたり、開陽台まで遊びに行ったりして、その後、夕方の搾乳作業をそのまま、一緒にできて、私も楽しい時間を過ごせました。この出



会いを大切に、地域産業を伝えると共に、これから新しい友達ができるよう、仕事だけではなく、幅広く活動していきたいです。

若手経営者として、視線の先は『農業』にとどまらず、『やる気』あふれる女の子です。

この本文を見て、「私もこつこつた機会を待っていた。交流会に参加したい」と思った女の子がいっぱいありましたら、すぐに、経営企画課 組織広報係までご連絡ください。また、ご意見・ご感想もお寄せ下さい。



高島君初戦突破



2戦目...相手が大きい!

全国各地から農協青年部員が集う

『全道』A青年部大会』が 開催されました

12/1・2



大沢親分



平和男会長



発表者
櫻坂君

補助者高橋君



札幌パークホテルを会場に、12月1日、2日の日程で、全国各地から農協青年部員が集う『全道』A青年部大会が開かれ、大会テーマ『Win-win』希望の大地を育む』のもと、約600人の盟友がともに『基本農業政策の確立』『食と農の真価と自己啓発』『担い手の創生』という先人たちの英知と情熱を次世代につないでいくことが今の私たちの役目であり、希望ある子どもたちへ大地と緑をつないでいくこと、北海道農業の創生と改革を進めていくことを強く宣言しました。

第54回となる今大会には、先月号でもお伝えしたように、当青年部の第31回全道JA青年部活動実績発表大会出場や全体懇親会の中のJA道青協会長杯 各地区対抗アームレスリング大会への出場という例年以上に力の入る大会となり、当青年部からは7人が参加しました。

大会一日目、青年の主張発表では、大会宣言にも示される、次世代へつなぐ役割を担っていくことへの紆余曲折を経て自分がどうして行くべきか、農業への思いを全道6地区からの代表者がそれぞれに発表。活動実績発表では、当農協青年部中標津支部の櫻坂直俊さん、開陽支部高橋春樹さんの補助による発表が一番手で行われ、他の発表者の度肝を抜く声量のある説得力のある声で、ハキハキとスライドとの調子もびったりと合った発表を披露しました。

局からの情報提供を受け、取るべき方向性などを模索しました。

大会1日目終了後の全体懇親会では、全道12地区からの代表および平和男道青協会長によるアームレスリング大会が開かれ、根室地区を代表して当農協青年部から高島敦志さんが出場しました。

丸太ほどの腕のある選手や学生柔道チャンピオンなど、その筋でも成功者になりそうな猛者を相手に、けつして体格の小さくない高島さんが一回り小さく見えるような選手ばかり。一回戦を突破しましたが、2戦目で準優勝者に敗退となりました。

2日目は、球界への「喝」で人気を博す大沢啓二氏の「人生苦あれば楽あり」と題した記念講演、一分間スピーチの後、前日の実績発表の結果発表に息をのみました。

結果は、十勝地区代表JAさらべつ青年部の「総合的な学習の時間」という内容を発表された、水口恵充さんが最優秀賞を得ました。

大会までの2カ月あまり、JA中標津青年部で実績発表に参加した担当者は、多忙な時期にもかかわらず、制作と発表練習に力を入れてきました。今回、たまたま最優秀賞には漏れましたが、当青年部は評価される多種多様な内容の実績を積んできていると胸を張って言えると思います。発表に際して制作に当たった方々、過去から今までに青年部の各種事業に積極的に参加されてきた部員の方々、これからも青年部活動を盛り立てていてください。



大会決議の後、参加者全員でガンパロー

体細胞20万個 / ml以下
細菌数0.4万個 / ml以下
脂肪分4.0%以上
無脂固形分8.8%以上
乳蛋白3.2%以上



High Quality
MILK宣言



松田 貴裕
MATSUDA
TAKAHIRO



板橋 匠
ITABASHI
TAKUMI

私在家の仕事の中で、一番注意をすること。気をつけていることは『繁殖管理』です。

今は、経産牛の発情などを『万歩計』のシステムなどである程度、確認できていますが、未経産牛の発情を見落とすことがあったり、発育などの問題で、なかなか上手に活用できないこともありますので、朝夕行ってきた牛の観察時間を増やし、昼に餌押しした後の時間も見るように心がけています。

また、飼料関係の見直しや定期的に獣医師へ見せたりして気をつけています。

哺育牛へは、生まれてからワクチンの接種や『へそ』の消毒。ミルクへの添加物を考えながら色々を入れて経過を見ています。そのほかにも、哺育牛舎の掃除や石灰散布など衛生面の管理にも気を使っています。

糞尿散布は、地域の方々と組む『グラスグループ』で行います。

作業が終了した後のお疲れさん会もまた格別。(平成17年10月作業終了後のお疲れさん会で撮影)



全戸達成を目指そう！

J A 中標津

私が乳質改善で注意して行っている事は、乳房炎牛の早期発見と治療です。また、乳汁サンプル検査を行い、原因菌の特定をすることも重要だと思います。治りが悪い黄色ブドウ球菌(SA)や何度治療しても完治しない牛は、乾乳する際にK P ラック、セブメジンなどの泌乳期用の治療剤とタイロシン注射液を3日間、筋肉注射し、乾乳期用治療剤であげます。

SA牛に対しては、かなり効果的ですが泌乳末期に治療するより、中期に治療する方が、より完治する可能性が高いと思います。又、乾乳する際、アルコールで乳頭を消毒し乳頭保護剤「ドライカウ」を使用してます。

飼養管理面では、牛舎内の寝床を乾燥した状態にするため、エスカリュ(石灰)やゼオライトを散布しています。

牛の糞の状態が軟便になりすぎないように、ステージの異なる粗飼料(ロールサイレージ)の組み合わせと配合飼料のバランスと量に1番注意しながら管理しています。最後になりますが、抗生剤の投与については、必ず獣医師と相談の上、使用して下さい。



みんなの
掲示板



イベント、公募、売り買いのリサイクル情報など、組合員の便利な掲示板として、皆さまからの情報提供もお待ちしております。

☎ 72-3721

アイディア料理で
おもてなし

交流施設で
『クレエまつり』開く

11/30

食品加工交流部会の主催でJA中標津農業農村交流施設にて、「クレエまつり」が行われました。

昨年のクレエまつりは、交流施設の見学開放、加工品の販売等を行い部員と消費者との交流を兼ねて企画されましたが、3回目となる今年は、加工部会3グル



ープ（パン・菓子、レトルト・保存食、乳製品・地場産）が、これまでの活動成果として、当日までに各グループそれぞれが、加工品製造などの準備を行い、パンや惣菜など5〜6品ずつの加工品を出品し、バイキング形式の試食を行い、情報交換・活動成果のPRの場とする内容に変えて行いました。

当日は、町農林課職員、普及センター、消費者協会などの関係機関、農協職員の方々も招き、加工品を試食してもらい、「大変美味しい味でした。このような交流の機会を多くの方に味

わってもらえるような活動の広がりや」など、感想を述べてもらいました。これらの感想を踏まえて、各グループのアイディア料理が多くの人に親しまれるように、地域への活動の広がりを期待しています。

女性部・
スポーツ交流会

12/2

中標津町営体育館にて女性部『スポーツ交流会』が行われました。

日頃の運動不足解消・女性部3層の交流として企画されたスポーツ交流会。色々な種目を用意しましたが、ミニバレー、卓球を行いました。



跳んでるつもり!?

小出さんの珍プレーに
笑いの涙



ミニバレーでは、見事な珍プレーが出るなど歓声や笑い声絶えることない2時間となりました。参加人数が10人と、少ないのが残念ではありましたが、楽しい交流会となりました。

かわいらしい、
きめこみ
パッチワークが完成
女性部・青葉会

12/2

農協中会議室にて、青葉会9人の参加で『きめこみパッチワーク教室』が開かれました。

今回の作品は、『ミニブレード・ちりめん戎張り子』、来年の干支にちなんだ成のきめこみパッチワークに挑戦しました。

15cm四方ほどの型抜き済みボードに、色とりどりのちりめん布を切り、きめこみ貼りこんでいく作業を繰り返すという作業に苦戦しました。予想以上に時間がかかってしまいましたが、かわいい作品が出来上がりました。



山下匡大さんが「第2の故郷」をアグリメッセージ

根室管内青年農業者会議

12/6

根室管内4Hクラブ連絡協議会の創立50周年記念式典と第31回根室管内青年農業者会議が、12月6日、北海道立根釧農業試験場で開かれ、根室管内で農業に携わる青年・女性、関係団体から総勢90余人が集まり、プロジェクト発表、アグリメッセージに耳を傾けました。



前段に行われた50周年記念式典では、昭和61年からの歴代会長や関係団体など来賓を招いて、活動経過の

報告や功労者への感謝状、記念品贈呈などが行われました。

農業者会議では、別海町4Hクラブ連絡協議会による消費者に酪農を伝えるために行ってきた調査検討活動の発表。根室市4Hクラブによる、農作業事故削減のために、危険対策項目をマニュアル化し、地域の事故軽減を目指した取り組みをプロジェクト発表されました。

アグリメッセージでは、開陽の山下匡大さんが、矢白別演習場付近から移転するか酪農するかという選択から、魅力ある酪農業を続けていきたいと父を説得し、新天地で飼養方法の変更などを行いながら、試行錯誤している段階であること。移転という環境の変化にも同年代の農業青年らの団体に積極的に参加することで地域に溶け込んでいくという体験を踏まえ、「第2の故郷」開陽で理想の酪農スタイルを築きたい」と力強く発表しました。

そのほか、別海町の酪農家夫人田中さんによるグリーンツーリズムに関連した取り組みを行っていききたいという「私のアグリビジネス計画書」、就農して10年、標津町の福地さんによる「ゆめをあきらめな」というメッセージも発表されました。

実績発表披露やバンド演奏などで1年を反省

青年部反省会

12/7

今年の4月～12月を振り返り、残る3カ月の起爆剤にする、恒例青年部反省会が、12月7日、寿宴で開かれ、青年部員と農協職員の見学60人ほどが集まり、さまざまなアトラクションに年忘れの歓声をあげました。

年末のなにかと多忙な時期に、組織強化委員会の交流会の企画で運営され、12月1日、2日で行われた青年部全道大会での「実績

発表」と「アームレスリング大会」の模様を実際の発表者と参加者らの感想を交えて発表し、ルーキーズカレッジ2期卒業生として青年部所属の3人が海外研修に参加したことの報告が行われました。アトラクションでは支部の団結力が試される青年部リレーや開陽支部のメンバーが中心となり組織されるバンド「ざ・がんべ」の演奏、職員有志の歌声・演奏披露などもあり、酒と熱気で体も暖かくなりました。



スポーツ交流会で連覇ならず

J A根室地区青協

12/10

各JA青年部事業の活性化と単組、盟友間の親睦を図る目的で行われるスポーツ交流会が、12月10日にウコウボウルで開かれ、当青年部からは、9人の代表が2ゲームトータルスコアを競うボウリングで汗を流しました。

昨年、一昨年と優勝をさらった団体戦では、残念ながら連覇にはなりませんでしたが、2位、3位、4位と上位成績をキープし、「強者なかしべつ」をアピールしました。個人戦でも、中本信幸さんがハイスコアで3位になるなどの結果となりました。

青年部のボウリング愛好者を募り、定期的に大会を開くか!?などの声も上がり、盛り上がりました。

体力年齢を測定しましょう

女性部・フレッシュユミス

12/10

中標津町営体育館にて、フレッシュユミス体力測定が行われ、8人が参加しました。

文化スポーツ振興財団の松田さん・板倉さん指示のもと、まずは握力を計測し、続いて上体起こし、長座体前屈や反復横跳びなど計6項目で測定。各項目の測定結果から体力年齢を判定しました。

結果は…。判定基準が厳しい!?のか、参加者全員が実年齢とかけ離れていました。



乳製品の自作、試食を

「乳製品製造研修」開催

12/16

ルーキーズカレッジ3期生による乳製品製造研修が農業農村交流施設クレエで12月16日に開かれ、アイスクリームとバター、乳飲料を自作し、試食しました。

自分たちの生産している生乳が、どのように加工されるとアイスクリームやバター、乳飲料といった製品になるのか?そのような工程や過程を知らないで生乳生産しているのは、酪農家ではなく搾乳家である。という教えもあるように、『酪農家と胸を張って言えるようになるために、習得しておきたい知識です。』

北根室地区農業改良普及センターの西川氏を講師に行い、砂糖の比率をいろいろと変えたアイスクリームやホイップクリームを振って作ったバターに調味料を入れて特製バターが完成。



牛乳に砂糖とクエン酸、乳酸を加えて作った乳飲料も自分で作ると自分好みの味にすることが出来ます。

自分の仕事を様々な人に見せることができるのも、農家ならではの醍醐味です。自分の牧場見学に来た人と一緒に作って食べさせられることができれば、立派な『酪農家ですよ』ね。

ソフトバレー競技者の楽しみの大会に

第10回JANAなかしべつ杯ソフトバレーボール大会

12/18

第10回目となるJANAなかしべつ杯ソフトバレーボール大会が12月18日、中標津町営体育館で開かれ、32チームが、リーグ戦および決勝トーナメントで熱戦を繰り広げました。

当日は、寒気団の影響で一部地域からの参加チームは吹雪のために会場へ着くことができないに棄権しなければならぬ状況にもなりましたが、青年の部・壮年の部に大変多くの方が大会へ参加していただきました。



大会結果は次の通り。青年の部

- 1位〃C3
- 2位〃インフィニティ
- 壮年の部
- 1位〃中標津JV
- 2位〃笑。



退職者紹介

お世話に
なりました



管理部金融課

小川 あゆみ

この度、12月31日を持ちまして退職させていただくことになりました。平成2年4月に入組し、金融共済課、経営相談課（現経営企画課組織広報係職）、そして金融課と15年間勤めさせていただき、振り返ると組合員の皆様には大変お世話になった記憶ばかりが思い浮かびます。

また、上司や同僚の皆様方の支えがあつて今までやってこられたことを改めて実感し、深く感謝しております。

農協での日々を思い返すと寂しさが増しますのでやめておきますが、いつまでも、皆様のご健康とご活躍をお祈りしております。長い間お世話になり、本当にありがとうございました。

乳製品消費拡大イベント

「チーズDE晩ごはん」

大盛況!!
600人が集合!!



J A根室地区青年部連絡協議会（北村篤会長）と根室地区酪農対策協議会（高橋勝義会長）が主催した乳製品消費拡大イベント「チーズDE晩ごはん」が、12月21日、寿宴で開かれ、町内外から約600人の参加者が訪れ用意したチーズをメインとした料理がペロリとたいらげられる大盛況となりました。消費の低迷が続く、乳製品の消費拡大を目的に、地区青協が春から計画してきたもので、地区酪対の大きなバックアップ、地域の乳業メーカーの多大なる協力を得て開催する運びとなったもの。

開会宣言では、佐々木大輔地区青協副会長の号令で「牛くん」との牛乳による乾杯で試食会がスタート。会場となった寿宴のシエフと協議して、手軽に購入できる乳業メーカーのチーズを使って作れる7つのチーズ料理を来場者に試食してもらいチーズの消費拡大を訴えました。

会場で試飲されたワインは、同じ道内おたるの青年部より購入した3種類のどれも様々な賞を取った美味しいワイン。また、提供いただいた「道産米『ななつぼし』『ほしのゆめ』のPRにと釧路からホ

クレンの職員も駆けつけ、来場者へ「美味しい道産米に今すぐ米チエンして下さい」とアピールしました。

アトラクションでは、5種類のチーズを食べて種類を当ててもらった「ききチーズ大会」、『大抽選会』のほか、別室では、チーズの起こりをやさしく解説したビデオ映像や、模擬牛による搾乳体験、当農協酪農課乳製品工場による、乳製品PRなどのブースも子ども連れの来場者で賑わいました。

来場者からは、「チーズが大好きで、素晴らしい企画だと思います。大変ごちそうになりました」「このようなイベントをまた、企画して欲しい」などの声も聞かれ、「行動することでどんどん乳製品のPRと消費拡大につながっていく」と主催者一同手ごたえを感じたようです。



この味は？ 何チーズ？
（ききチーズ大会）

行事予定表

2005年12月 組合動静

- 1 (木) 地区別懇談会 開陽地区営農計画書作成～22日青年部全道大会～2日
- 2 (金) 地区別懇談会 当幌、中標津地区女性部スポーツ交流会関西女性との交流会～5日
- 3 (土) 地区別懇談会 依橋、武佐地区
- 4 (日) 地区別懇談会 第2俣落、西竹、俣落地区
- 7 (水) 青年部反省会(寿宴)
- 9 (金) 中山間委員会
- 10 (土) フレッシュミズ体力測定(町体育館)
- 14 (水) 農協酪対役員会
- 21 (水) 乳製品消費拡大イベントチーズDE晩ごはん
- 23 (金) 天皇誕生日
- 30 (金) 業務納め

2006年1月

- 1 (日) 元旦
- 2 (月)
- 3 (火)
- 4 (水)
- 5 (木)
- 6 (金)
- 7 (土) 一般業務初め、役員協議会
- 8 (日)
- 9 (月) 成人の日
- 10 (火)
- 11 (水)
- 12 (木)
- 13 (金)
- 14 (土)
- 15 (日)
- 16 (月) JA全国監査機構 監査～20日
- 17 (火)
- 18 (水)
- 19 (木)
- 20 (金)
- 21 (土)
- 22 (日)
- 23 (月)
- 24 (火) 内部審査～26日
- 25 (水)
- 26 (木) 第5回生産委員会
- 27 (金) 第6回営農委員会
- 28 (土) 第7回営農委員会
- 29 (日)
- 30 (月)
- 31 (火)



2月の「なかしべつ冬まつり」に提供予定

プレミアムココア

Premium Cocoa



先月号で、料理が趣味？
と話してくれた、
金融課・工藤香菜子に
手伝ってもらいご紹介しします。

用意するもの

粉末ココア。なかしべつ牛乳。バター。
生クリーム(ホイップ)。

分量はすべて適量で、濃いのが好きな方、
薄いのが好きな方いらっしゃると思います
のでさまざまに試してください。



Recipe

バターを鍋で溶かして、
ココア粉末を炒めます。
バターとココアの絶妙な
調和された匂いが立ちこ
めてきます。
なかしべつ牛乳を混ぜて
いきます。ココア粉末が
溶けていくように。ゆっ
くり、煮だたさないよう
に。
コップに注ぎ、ホイップ
クリームをトローリと乗
せます。その上に、ココ
ア粉末をまぶして完成。



注意点としては、バターの分量を多くしすぎると塩辛いココアになっ
てしまいます。

「このココアを作って、女性に飲ませると別れてくれなくなる」とい
う話も聞かれる、逸品のココア。
ホットチョコレートと言って提供する喫茶店もあるように、冬の温ま
れる牛乳、バターたっぷりレシピとして飲んでみてください！

このココアのレシピは開陽 山田良昭さんです。



牛乳は

よく骨を折る

牛乳に
相談だ。
gyunyu.com